

1

「子どもの権利条約」 推進部門

子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」がより保障される社会をつくるために

引き続き、不登校の子ども居場所づくりを受託・実施。非行の子ども自立に向けた「親たちの会」の運営、隔週講演会、シンポジウムの開催などに取り組みました。

1-1 親の会(非行問題プロジェクト)事業

2006年度～
自主事業

2012年度の「陽だまりの会」の特徴は、ここ最近是非行の子どもたちの形態に変化が見られると同時に、きょうだい関係に大きく影響が出てきたことです。

きょうだいのうちひとりが非行行為を行った場合、その子だけの問題でなく、他のきょうだいも非行行為を行う場合もあります。このことで、親子の関係を考えると共に、家族の関係、夫婦の関係を話し合う機会にもなりました。

また、非行行為も集団性が薄くなってきており、集団の数が減少してきています。会のアドバイザーとして、少年刑務所法務教官(臨床心理士)、元家裁調査官(臨床心理士)をお迎えして、常に会を見守っていただく体制をつくり、安心して参加出来る会であったと思います。

非行問題の相談としては、4件の問い合わせがあり、現在は親の会へと繋がっています。この会の活動を開始して参加者も定着してきています。以下に参加者数を示します。継続することの重要性が見えてきます。親の会だけではなく、シンポジウムの開催案内も積極的に行い、非行問題を多角的に学ぶ場を提供することができました。

【次年度の計画】

参加者の方々の苦しみや悲しみ等を受け止め合いながら、子どもの社会参加に向けた具体的な相談もしていきたい

大阪市子ども青少年局から大阪市不登校児童通所事業の委託を受け、2010 年より此花区四貫島にあるサテライト此花の運営を開始しました。

サテライト此花には前年度より継続して登録している登録者が 1 名、体験利用が 2 名、新規登録者が 2 名、一人ひとりの子どもの課題に向き合いながら、居場所で活動を行いました。

- ・居場所開設日：火・水・木・金 11：00～15：30
- ・開設場所：此花区子ども・子育てプラザ内 音楽室
- ・居場所登録人数：3 名、体験利用人数：2 名
(内訳：中学 3 年生 4 名、中学 1 年生 1 名)

<子どもに向けて>

スタッフや子ども同士のコミュニケーションを通じて、人間関係の構築ができるよう居場所づくりを行いました。活動場所は居場所内に限定せず、施設内にある軽運動を利用し、日々の集団生活の中で子どもたちの「やりたい」気持ちを尊重した活動を心掛けました。

そして、スタッフと子どもとの関係作りでは、紹介文を壁に貼ったり、居場所に来る皆が情報共有できるようにインスタントカメラを用いて、日々の活動の写真を撮る等の工夫を施しました。そうしたことにより、子ども、スタッフのコミュニケーションツールの 1 つとして機能を果たしました。

体験活動では、季節を感じられる行事やイベントを実施しました。子どもの声に沿った活動を行い、また講師プログラムも充実させました。今年度は、音楽療法士、理科実験の教師といった職業の方をお招きし、子どもたちにとって普段経験することがない貴重な機会を設けました。

【実施したイベント】

- 7 月～9 月：カキ氷作り、
- 10 月～12 月：調理実習（パンプキンケーキ作り）、音楽療法士による音楽活動
クリスマスパーティー
- 1 月～3 月：調理実習（ちゃんこ鍋作り）、理科実験（スライム作り）
遠足（大阪城）、お別れ会

<他機関との連携>

行政機関、医療機関及び登録者の所属学校と連携をはかり、登録者の社会参加に向けての情報交換や学習・進路支援を行いました。居場所で活動するスタッフには不登校支援に必要な研修を企画・実施し（6 回）、それに加えて各団体が実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（4 回）、人材育成に努めました。

【次年度の計画】

サテライト此花の委託期間が終わり、2013 年度よりサテライト住吉北、東住吉の 2 箇所の運営を実施します。

子ども支援に必要な研修を企画・実施し、それに加えて不登校の子ども理解に繋がる各種勉強会へ参加したスタッフに、居場所で活動してもらいました。大学生、主婦、介護福祉士、ヘルパー、精神保健福祉士など多様な年代、職業のスタッフがいることにより、「いろんな考え方の人がいる。私は私のままでいいんだ。」と安心感を持ってもらえるよう、居場所づくりを行いました。そういったスタッフと関わり、「此処に来たことによって、大勢の前で話せるようになった」、「話しかけるのは怖かったけど、仲良くなりたい気持ちがあったから話しかけた」という子どもの声が挙がりました。スタッフ向けの研修会では、スタッフ同士の人間関係(コミュニケーション)も深まるように多様な研修会や勉強会を企画・実施しました。それに加えて、不登校の子どものサポートに必要な専門性を高めるため講師を招いて研修を行い、各地で実施される研修会や学習会などに参加する機会を提供しました。また、新人スタッフに対し、不安軽減を目的とした研修も行いました。

実施月	スタッフ研修内容
4 月	個人情報、居場所のルールに関する研修
6 月	平成 24 年度「発達障害者支援センター全国連絡協議会」 実務者研修会『発達障害者支援のこれまでとこれから』
6 月	不登校児対応アドバイザー養成講座(全国 web カウンセリング協議会主催)
7 月	メンタルフレンド勉強会
8 月	登校拒否・不登校問題第 17 回全国のつどい in 奈良
10 月	新人メンタルフレンド研修
12 月	指導員交流会(大阪市子ども相談センター主催)
1 月	自傷行為について理解をする研修
2 月	当団体主催「学校は何のため、誰のための場所なのか、考えるシンポジウム」
3 月	今年度の振り返り研修

【次年度の計画】

次年度 2 箇所を運営することになるため、スタッフの増員を行います。それに伴い、居場所のあり方、当団体の考え方を改めて伝え、さまざまな背景をもった子どもたちに適切に、また柔軟に対応ができるよう継続したスタッフの研修を企画・実施をします。

パナソニック NPO ファンドを利用して、常設の新拠点「スゴストコロ」を開設しました。現在スゴストコロでは、「ティーンズスペース」という 10 代の子どもの支援事業を展開しています。中身としては、学習支援と居場所の提供をしています。10 代にこだわったのは、当会の他の事業から、「10 代の子どもたちの支援が立ち遅れ気味」になっていることが明らかになっているからです。

たとえば被虐待の子どもの支援も、乳幼児であれば早急な対応がなされることが多いのですが、年齢が高ければ高いほど自ら逃げられる可能性が高まるということで、後回しにされるケースがあります。このような状況から 10 代の子どもの見守りを中心にして、自分で学ぶことを応援し、青春期の心理的葛藤を安らぎをもって軽減する居場所の提供を始めました。

場所は旭区の市営高殿西住宅の 1 室を借りて確保しています。高殿西住宅を借りるにあたっては大阪市の「コミュニティビジネス等導入プロポーザル」を利用しました。地域に還元する活動を行う団体に家賃の半分の補助するというものです。地域に根ざした活動にするため、自治会の火の用心などに参加し、少しずつ信頼関係を築いています。

事業利用は登録制で、1 回（1 日）500 円という設定にしています。開設は毎週小学生 4 年から利用可能となり、高校生までもを対象としています。過ごし方は子どもに決めてもらいます。スタッフと遊んだり、勉強に取り組んだりと色々です。

3 月末の登録は 1 名で、無料体験期間の利用者は 4～5 名です。「家族みたい」という子どもの言葉が聞かれ、家庭での生活に少しさみしさを感じていたり、休みの日も一人でご飯を食べることが多いという子どももいて、生活の中での関わりの少なさが見られました。そのような関係性を豊かにする居場所をめざし、事業を展開していくことが、目の前の運営目標です。ただ、無料期間は楽しく過ごし、その結果、保護者に「利用したい」といっても、居場所の利用に 500 円を支払うことはかなりハードルが高い様子が見えます。居場所という言葉ではなく、子どもの経験を豊かにすることを前面に出した広報のあり方の模索などが必要だと考えています。

また毎週水曜だけでなく、土曜日を中心に 2 か月に一度の頻度でイベントも行っています。12 月はオープニングイベントもかねてクリスマス会、2 月はスライムづくり、3 月は春祭りを行いました。そこで遊びに来てくれた子どもが体験利用につながる事が多く、今後も継続して行っていきます。主に、簡単な調理や、科学実験、工作やモノづくり（キャンドル、紫外線ビーズ）がイベントの内容です。子どもにとって自分で何かを作るということは、主体性の発揮の場面です。彼らの「作りたい」という意欲と「うまく作れた」という喜びがある企画を今後も展開しながら、スタッフとの関係性や体験の充実から子どもの健やかな生活環境の一部になることを目指していきます。

この事業では、委託や他の事業体と協同をせずに自前の経営資本を中心にして収益を上げていくためのサービスのあり方、地域との関係の作り方、ネットを使った活動の報告、無償ボランティアスタッフのコーディネートなど、他事業にはない要素、かつ当会にとって未知の要素を含んでいます。次年度計画とも重複しますが、活動の中で得られた経験から、それを他の事業などに還元していくことも目標の一つとなっており、その経験自体を財産として継承し、「システム化・転用化」、「さらなる効率化」のためのシステムづくりや振り返り体制を整えていくことが目下の目標の一つです。そのことを強い意識して次年度に向かいます。

スケジュール

<9月～11月中旬>開設準備期間

- ・近隣への挨拶(NPO 法人子どもセンターあさひ、旭区社会福祉協議会、高殿西住宅自治会、旭区役所、旭区小学校長会)
- ・ホームページ(blog)作成、facebookを用いた広報
- ・手刷りチラシ作製
- ・大学のボランティアセンターあいさつ回り・チラシ設置等(大阪市立大学、大阪府立大学、関西大学など)
- ・自治会への参加(古紙回収)

<11月～2月>

- ・生涯学習センター、旭区民センター、旭区図書館への挨拶、およびチラシ設置
- ・近隣小学校校長への挨拶(高殿南小学校、高殿小学校、大宮小学校)
- ・大学のボランティアセンターあいさつ回り・チラシ設置等(京都産業大学、手塚山大学)
- ・ネットをつかった広報
- ・11月～ 『-10代の子どものための自分で学ぶトコロ、ほっとするトコロ-ティーンズスペース』事業(学習支援・居場所事業)開始 毎週水曜 15:00～
- ・11月 利用者1名
- ・12月 クリスマス会(近隣の児童参加者12名)
- ・近隣児童・保護者に対するのチラシの手渡し
- ・自治会への参加(12月、火の用心)
- ・2月 講師を招いての科学実験講座
- ・3月 春祭り

【次年度の計画】

本事業は「自主事業の少なさ」という当会の現状を克服するという試みでもあります。そのため、「採算をとっていくこと」を目指していますが、現状は大変難しい状況です。2013年6月までは、パナソニックの助成金を活用し、スタッフの人件費や交通費を賄って運営にあたりましたが、それが終わる6月以降のための、事業の中身、方向性、運営形態の再検討を行いながら、事業の採算性と意義の再確立を行う予定です。また、運営をしていくという中で、常設の現場をつくっていくノウハウを蓄積し、他事業に活かすという視点をもって運営にあたっています。地域との関係づくりだけでなく、ボランティアの呼びかけ、ブログやSNSを使った活動報告など、委託授業では不可能だった当会の活動内容の情報発信なども新たに取り組みながら、システムとして他事業に運用できるようにしていきます。加えて、子どもの実態を幅広く見ることも可能なため、多様な子どもの今を感じ、考えるきっかけにもします。

スタッフ体制が課題として挙がっています。ボランティアでスタッフ体制を組んでいますが、安定した配置ができず、運営が困難です。しかし、有償ボランティアにするほどの余裕もなく、活動の中身自体の充実をもって、スタッフの確保を図っていく予定です。

2

次世代育成 支援部門

誰もが安心して自信を持って子育てができる環境をつくるために

地域の中で大人も子どもも共に育ち合う「共育」をめざし、コミュニティづくりと子育て支援の拠点施設を運営。

また、地域の子育て支援スタッフ向け研修会や、一時保育を通じた子育てサポートなどを行いました。

2-1 つどいの広場「ゆう」運営事業

2008年度～
受託事業

寝屋川市から委託を受け、寝屋川市立三井小学校の余裕教室を利用したつどいの広場「ゆう」の運営も2013年10月1日に5周年を迎えます。おおむね3歳未満の子どもとその保護者を対象に、開設時間中にはいつでも利用でき、広場スタッフが2名以上常駐しています。同年齢くらいの子どもたちが一緒に遊んだり、親同士の交流を深めたり、子育てや地域の情報などを提供しています。

小学校で開設していることを活かして、毎年1年生、5年生との交流会を実施しています。乳幼児との交流は、児童にとって幼いこどもに対してやさしい気持ちになれ、自分も大事に育てられたと命の大切さを知る機会となっているようです。同時に利用者親子にとっても普段遊ぶ機会のない小学生と遊んで楽しむわが子の姿が見られたり、何年か先の子どもの姿を想像できる等の良い発見があります。

他にも小学校で実施の避難訓練に参加させてもらったり、運動会の日には、休日の広場を解放し、乳幼児の授乳、おむつ替えの場所提供の他、休憩やランチタイムにも皆さんにご利用いただき喜んでもらっています。

広場以外にもイオンモール寝屋川で月2回の「出前広場」、地域の公園で「出前お話し会」を開いており、校区を越えて広い範囲での子育て支援に取り組んでいます。

さらに地域の方々とかかわりも大切だと考え、サークル支援、サークル活動に参加したり、今年度は校区福祉委員会の方々の集まりにも月1回3か所を訪問し、交流を深めています。

ゆうでは、毎月の定例子育て講座の他、パパのための子育て講座や親子で楽しめる様々なイベントをしています。

ゆうは安心・安全な場所であり、利用者親子がホッとする居場所を基本とし、これからはすべての親子にとって心地よい環境作りをしていきたいと思っています。

ゆうに遊びに来ることで、少しずつ親同士の交流が広がれば、同じ地域の中で支えあっていける関係ができ、そのうえで地域の人たちが子育て家庭を応援する、そんな子どもも親も安心して育つ環境づくりに繋げていきたいと願っています。

- ・開設時間：火・水・木・金・土の10:00～16:00
- ・会 場：寝屋川市立三井小学校普通教室棟1階
- ・参加者数：5581名（延べ人数、内訳：おとな2534名、子ども3017名）

2012年度決算額 5,251,000円 （2013年度予算額 5,560,000円）

【次年度の計画】委託事業の内容に地域支援の枠が出来たので、ゆめ基金を活用して、子育て世代のみならず地域の高齢者や中高生、ファザーリングジャパン関西と連携し、新しく絵本の講座を開きます。合わせて父親向けプログラム、小学校児童との交流活動も進めて行きます

23年度から実施しているイオンモール寝屋川での出前広場をきっかけにイオンモール寝屋川から24年度のイベント開催の依頼があり、ファザーリングジャパン関西と連携し

- ・親子でコミュニケーションを取ることを楽しさを感じ、その機会を増やす
- ・家族で子育てをしようのメッセージ発信
- ・市民の力を活かして、子育て家族の応援をしよう

をコンセプトに、「パパ・ママ・ちびっ子大集合」と題して、1年間開催しました

2012年4月22日(日)パパと遊ぼう!親子で遊ぼう!心を育てるふれあい遊び

講師:小崎恭弘(神戸常盤大学短期大学准教授)

5月20日(日)親子で遊ぼう!心も身体もリラックス!!

講師:前城邦子(保育士)・松田律子(保育士)

6月3日(日)ダンボールでダイナミック遊び

講師:矢野紙器株式会社 島津 聖

7月22日(日)歌あり、笑いあり、体操あり、親子でふれあい遊び

講師:松竹芸能ママコンビ Jan2

8月12日(日)イオンモールで夏あそび～楽しい遊びの屋台とステージ～(2回)

講師:えびすブラザーズ

10月21日(日)親子ふれあいヨガ～手遊び・ふれあい遊び・絵本・ヨガ・マッサージ～

講師:鳥居佐和子(助産師、わらべうたベビーマッサージ認定インストラクター)

11月18日(日)パジック!親子手品で不思議体験

講師:和田憲明(FJK代表)

12月23日(日)親子で楽しく遊ぼう!～サンタの手遊びと、クリスマス飾りづくり～

講師:小倉和人(KOBE子どもの遊び研究所所長)

2013年1月6日(日)お正月はコマ遊び

～色んなコマをみてみよう・さわってみよう・回してみよう!!～

講師:金坂尚人(NPO法人S-pace /FJK)

3月10日(日)思い出づくり写真教室 家族写真がグレードアップ

講師:木村哲也カメラマン

3月17日(日)親子で楽しく見よう!～わくわく楽しい人形劇～

講師:人形劇 こんぺいとう



NPO・企業とのコラボレーションによる事業「共育（ともいく）」とは、世代間を越え、地域の中で大人も子どもも共に育ちあう関係づくりをめざし、JR学研都市線「松井山手駅」前で、ファミリーリソースセンター「つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]」を運営し人と人、人とまち、人と自然の共存する「共に育み、ともに育つ」＝「共育」を子育て支援の観点からサポートしています。本年(2012)度10月より保育業務に特化する形で保育内容の見直しをすすめ、2013年4月より、給食の実施、料金改定を行い、一人一人の子どもに寄り添えるようなきめ細かな保育に努めています。

▽保育

国籍、人種、宗教、障がいの有無にかかわらず、子ども一人一人の個性を大切にされた保育を実践しています。また、日々変わりゆく環境の変化の中で私たち大人がどのように関わっていけばいいのかを考えるとともに、乳幼児期という人間としての土台を築いていく大切な時期を「親子」で「家庭」で「地域」で「みんな」で見守りはぐくんでいきたいと思ひます。

【保育】

- ・月極め保育登録者：37名（2012年3月）
- ・保育年間利用者数：4016名（延べ人数）
（2012年度末現在）



▽子育て中の親をサポートする子育て応援プログラム

生後3か月から小学校4年生までを対象に、一時保育や月極め保育の保育事業や、放課後クラブといった学童保育にも取り組んでいます。仕事だけでなく、リフレッシュや通院など、幅広い目的で利用いただいています。また、週2回、親子でゆっくり過ごすことのできるおやこカフェや、月1回、育児用品の交換ができる「いちごバザール」、身長・体重測定デーに加え、今年度より月に一回、季節の行事等を盛り込んだ地域の方々とのふれあいイベントも行っています。

【カフェ】

- ・おやこカフェ年間利用者数：653名（延べ人数）
（2012年度末現在）
- ・放課後クラブ、



▽子どもや親、地域の人たちの関係づくりをテーマにしたプログラム

月1回のふれあいイベントでは、地域の親子、高齢者等とのふれあいを楽しめるプログラムです。京田辺警察署とタイアップした「交通安全教室」や子どもたちの作ったオニを新聞紙でやっつける「節分の集い」など家庭ではなかなか体験できないようなプログラムを盛り込んでいます。また保育の中で子どもたちが作った（勤労感謝のプレゼント等）を近隣の交番や会社を持って行き、地域の方との交流を通じて、地域での社会的役割を担うことも視野に入れていきます。

- ・つくるどころ会員数：48組
- ・ボランティア登録数：約49名（延べ人数）
- ・連携団体：京阪カインド（株）、京阪電気鉄道（株）

(2012年度末現在)



▽子育て支援者養成講座

外部のパートナー企業やNPOが実施する子育て支援者向けの講座も行っています。今年度は財団法人子ども未来財団 NPO 法人ナルクの子育て支援者向け研修事業をつくるどころで行いました。



▽京都府優良認可外保育施設認定書交付

2013年1月23日に京都山城北保健所より「京都府優良認可外保育施設」の認定を受けました。子どもたちの望ましい発達を促し保育の向上を図る為、より一層努力を払っていききたいと思っております。

【次年度の計画】

保育に特化することにより、保育内容の充実と個々の子どもに寄り添うきめ細かな保育の実現を目指します。また、それとともに地域の子どもと大人が共に育み、共に育ち、子育て家族が安心して子育てできるようなサービス、場を提供していきたいと思っております。

2-3 一時保育事業（保育グループカシオペア）

2000年度～
自主事業

「こどももおとなも、ありのままでゆっくりと」を目標に保育活動をしてきました。企業や組合の一時保育依頼は昨年度と同様の数がありました。毎年の依頼は、先方との関係も深くなっていますが、何より子どもとの関係も深くなりつつあります。一年に一度の再開ですが「あの、おばちゃんや」と駆け寄ってくる子どもがいます。子どもの一年の成長ぶりに驚かされます。

また、一時保育内容も高く評価されています。他の団体の一時保育と比べて随分と丁寧な対応・保育内容であるとの評価も得ています。ス

スタッフが実績を積み重ねることで、質の高い保育が実現しています。

また、戎橋商店街のイベントに一時保育定期化の相談もありました。

【次年度の計画】

子どもの居場所として安心して存在できる環境づくりと保護者の方が安心して預けることができる関係作りを進めていきます。子どもの居場所として安心・安全な環境整備が大事だと考えています。

2-4 ドーンセンター「こどものへや」運営事業

2003年度～
受託事業

この事業は「ドーン運営共同体」との協働事業です。

毎週木曜日の定期保育とドーンセンター内施設で講座等自主事業を行う利用者の子どもの一時保育「保育つきサポート講座」を受託しています。

保育つきサポート講座は利用率の徐々に高まっており、ニーズの高さが伺えます。

定期保育内容においては、受託事業でありながらも当団体のミッションである「子どもの権利の尊重」を大切に、月齢に応じて保育者を増員する等、0歳の子どもの意思をも尊重しています。

保育スタッフは、カシオペイアのメンバーが中心です。実績に積んだ保育スタッフが保育にあたっています。

実績を積んだスタッフからは、「こどものへや」のあり方等の意見も出されるようになり、保育スタッフの多角的な視点で保育が行えるようになって来ています。

【次年度の計画】

保育団体同士の関係性を見直しを行います。「こどものへや」に利用団体においては、関西こども文化協会だけではありません。他の団体も利用することで「へや」の管理をどうするのかの課題があります。

3

企画・情報 提供部門

子どもの権利条約に適う教育や子育てに関する情報を伝え、意識を高め、市民の取り組みを促進するために

今、社会で課題となっていることをテーマに情報誌「インファerno」を定期発行し、子どもの現状を社会に発信しました。また、Facebook、twitterといったSNSを開設し、当会の情報の発信する手段を増やし、当会の支援者の拡大を目指しました。

3-1 情報誌「インファerno」

1999年度～
自主事業

子どもの今をみつめ、未来を育てる情報誌「インファerno」を定期発行しています。子どもや若者の声を拾い上げ、現代の子どもを取り巻く教育、非行、環境問題や子どもの参加権の保障など様々な問題に即して専門家・研究者による論説、NPOや行政・企業などの取り組みの現状と課題と共に、子ども自身の自主的な活動を社会に発信しました。

2012年度の内容は、教育行政の在り方、子どもを中心に置いた保育園を保護者が掴み取った事例、大津市のいじめ自殺問題をうけて、繰り返されるいじめの再考、といった話題を取り上げ、時節に応じたテーマを設定することで、子どもの今の環境の発信を心がけました。

40号	特集	講座報告	育つ・見守る・支える
	テーマ:今、教育行政のあり方を問う ・教えてください！教育と政治 談:小野田 正利氏(大阪大学大学院人間科学研究科教授) ・「子どもの夢と教師の夢が育つ学校づくり」 三春町教育改革の実践 ・高校生模擬選挙を通して生徒と船影が考えた「教育と政治」	「不登校」と「非行」学校を取り巻く環境と子ども達のことを考える1日限りのフォーラム	「子ども」と「お金」消費者として学ぶことの意味
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	寝屋川市中学生サミットの挑戦①	つどいの広場「ゆう」のエッセー	
41号	特集	ニュース	育つ・見守る・支える
	テーマ:子どもが育つ目線で考える保育所・幼稚園 ・事例1:松原市立第8保育所保護者会-保育所民営化、そのとき保護者は ・事例2:ジャングルようちえん-自主保育グループにみる親の思いと関わり ・保育所・幼稚園をとりまく環境変化と親のあり方、関わり方 大方 美香氏(大阪保育大学大学院 教授)	福島区学校教育フォーラム「学校選択制と中学校給食について」	公園であそぼう・つくろう・つながろう わが町にしなり子育てネット にしなり☆あそぼパーク Project 西野 伸一 氏 にしなり☆あそぼパーク Project 事務局
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	

	寝屋川市中学生サミットの挑戦②	つくるどころ[京阪東ローズタウン共育ステーション]のエッセー	
42号	特集	ニュース	育つ・見守る・支える
	<p>テーマ:繰り返されるいじめ事件 なぜ教訓は生かされないのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜいじめ事件は繰り返されるのか --私自身の研究を振り返るなかで <p>松浦 善満氏(関西子ども文化協会理事長・和歌山大学教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の先生に聞く「いじめ問題にどう取り組んでいますか?」 ・中学校の先生に聞く「なぜいじめがなくなるらないんでしょう」 ・いじめ事件を繰り返さないために --いじめ・自殺問題の報道をどう見るか <p>広木 克行氏(大阪千代田短期大学教授)</p>	<p>子育て支援者向け研修講座</p> <p>「子どもの食物アレルギー対応」</p>	<p>子どもの育ちと見守り</p> <p>～北摂太鼓集団「童夢」の活動より～</p>
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	寝屋川市中学生サミットの挑戦③	つどいの広場「ゆう」のエッセー	
43号	特集	ニュース	育つ・見守る・支える
	<p>テーマ:子どもにとっての学校選択制</p> <p>座談会:どう考える!? 学校選択制</p> <p>総論:大阪市における学校選択制度を考える</p> <p>碓井 岑夫 (NPO 法人関西子ども文化協会副理事長)</p>	<p>大阪弁護士会 シンポジウム</p> <p>「居場所のない子どもたち」開催</p>	<p><多様な子どもの育ちを支える現場から></p> <p>学習支援のより添いのお手伝い「無償塾」</p>
	子どもの社会参加	スゴストコロのダイアリー	
	<子どもや青年たちの様々な形での社会参加を紹介> 子どもが主体となり住民主体のまちづくりを推進する街①	今回は特別編! 「スゴストコロ」が綴ります	

【次年度の計画】

時節に合わせたテーマで、市民目線の子ども、地域、社会への問いかけをしていきます。媒体として紙を採用してきましたが、「誰でも手軽に見れること」そして、「読者を増やす」ことを目的に、インターネットを通じたインファノの発信を模索します。

4

教育・子育て 調査部門

教育や子育ての事例やデータを蓄積・研究し、取り組みに生かすために

各地で開催される研修会やセミナーに参加しました。また、柴島高校の PTA 支援、箕面市立彩都の丘学園の教育活動支援の事業にも取り組み、調査研究と並行しながら、教職員と連携して学校園の環境整備も行いました。

4-1 各種学習会、研修会への参加

1999 年度～
自主事業

各事業の取り組みにいかすため、各地で開催される学習会や研修会、及びシンポジウム等に参加しました。

参加プログラム	場所	参加日
平成 24 年度「発達障害者支援センター全国連絡協議会」 実務者研修会『発達障害者支援のこれまでとこれから』	大阪	2012 年 6 月 1 日
不登校児対応アドバイザー養成講座 全国 web カウンセリング協議会主催	大阪	2012 年 6 月 30 日
「ファンドレイジング実践セミナー～寄付集めの短期プラン を立ててみよう！」	大阪	2012 年 7 月 1 日
登校拒否・不登校問題第 17 回全国のつどい in 奈良	奈良	2012 年 8 月 25、26 日
大阪弁護士会子どもの権利委員会 「居場所のない子どもたち」シンポジウム	大阪	2012 年 10 月 26 日
ボランティアと向き合うことの多いあなたのためのファ シリテーション講座 「もっと活動の振り返り【リフレクション】を効果的に行 いたい」	大阪	2012 年 11 月 2 日
大阪市サテライト事業 指導員交流会	大阪	2012 年 12 月 6 日
『“寄付”“支援者”の拡大を目指すための実践型プログラ ム ～ 実践型研修 1 「NPO×facebook 始めてみよう！ facebook をつけた支援者交流・拡大」～』	大阪	2012 年 12 月 8 日
内閣府「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民 間団体職員研修」	東京	2013 年 1 月 28 日 ～2 月 1 日
大阪弁護士会子どもの権利委員会 「居場所のない子どもたち ～子どもの里の取り組み～」	大阪	2013 年 3 月 7 日

2011年度に引き続き、箕面市立彩都の丘学園の「学校と地域のコラボスクール事業」に協力しました。彩都の丘学園は2011年度開校した大阪府下で2校目の小中一貫校です。学園が位置する彩都エリアも2011年4月からまちびらきしたニュータウンで、地域づくりと学校づくりが同時に始まりました。コラボスクール事業とは、①地域とともにつくる学校運営②幅広いネットワークによる学校支援③学校を拠点とした地域づくり、の3つの要素を柱として、学校と地域の特性を生かした活動を実践・検証することにより、「新しい公共」型学校づくりに必要な要素のモデル化に取り組むものです。

彩都の丘学園の文化行事「ロバの音楽座」コンサートの受付が主な関わりでした。当会のfacebook ページを開設した時期であったので、その機能を活用して受付を行いました。新しい方法による受付方法を模索し、いい経験となりました。FAX やメールと組み合わせたの受付だったのですが、年齢層や地域によって受付方法に特色があり、応募チャンネルの多様性の確保と、ニーズに応じた方法の準備などのノウハウを当会シンポジウムなどに活かしていきます。

ボランティアコーディネートも行う予定でしたが、ボランティア募集に学生が集まらず、ボランティアをどう集めていくかという課題も確認されました。

【次年度の計画】

イベントにおける手伝いなどで関わっていく予定です。

5

市民活動コー ディネート・ネッ トワーク部門

他の NPO との連携や、NPO と企業・行政の協働のコー
ディネートで、市民活動の活躍の場を広げ基盤を強
化するために

北星余市高校の生徒募集協力を継続しておこないました。

5-1 北星余市高等学校全国生徒募集協力事業

2010 年度～
受託事業

今年度の実施事業内容

- 1、地域オピニオンリーダーの発掘
- 2、学校説明会を再考する。ワークショップの実施、
- 3、学校説明用プログラム開発と作成
- 4、スタディーツアーの実施
- 5、外部評価の実施（教育専門家は北星余市をどうみているか）
- 6、学校説明会参加者周知の協力
- 7、学校説明会実施のためのPTAとの協議の実施

生徒獲得のための提案事業を実施してきて3年目に入る。今年度は上記 5 項目を重点課
題として実施してきた。

不登校の子どもを受け入れる環境（通信制高校・単位制高校・フリースクール等）が整っ
てきている中で、北星の教育実践をどのように理解していただくのか、北星の魅力とは何か、
再点検する1年であった。

教師自らが「北星の魅力を認識する」こと目的としたワークショップを行った。

教師からはこれまでにない経験をしたとの意見が出たと同時に、自分たちの教育活動を多
角的に捉え、その意義をあらためて認識することができたようであった。

生徒獲得のためには、毎年、全国的に展開している学校説明会がキーワードである。親元
を離れ、遠く離れた北海道でどう生活していくのか、北星余市高校での生活を具体的に説明
する必要があるのではないかと、親が知りたいこと、子どもが知りたいことを客観的に見据え、
相手の要求に応える説明会を行うことが重要であることを提起した。

また、北星の魅力を体験していただくためのスタディーツアーを行った。授業参観、生
徒会役員との懇談会、下宿訪問、謹慎の館の見学等のプログラムであった。

生徒会役員との懇談会は、北星に来るまでの経緯、学校生活を送る中で自分の変化、家族
の変化、教師との関係、生徒集団の関係性等の発言があったが、生徒たちの発言は、まさしく
社会の問題を提起し、解決するための手法までの明らかにしたものであった。

【次年度の計画】

内部評価・外部評価策定委員の設置等、これまでの三年間の実績をさらに深め、北星余市の教育理念の拡大と生徒数獲得へ
と結びつけていく。

大阪府補助金事業である。

3年間の継続事業で2年目である今年度の事業目標は以下の通りである。

- 1、3年間の継続事業である。今年度の目標は「NPOの組織整備をすることで職場環境を整えよう」HPの開設。
- 2、「NPOを職場にする」シンポジウムの開催
- 3、NPOにおける働く環境改善指導員の養成
- 4、「NPOにおける働く環境整備事業モデルケース作り」

NPOにおける働く環境整備を組織改革も含めて実施したことはNPOの世界でも珍しいケースと言えよう。また、自らの組織改革を実現しながら、このノウハウを他団体の働く環境基盤づくりをサポートした。

当団体の大きな組織改革を今後「子どもの権利」尊重の活動にどう活かしていくのかが課題と言えよう。

【次年度の計画】

今年度は自主事業として事業を展開していく。2年間の実績を他団体支援と結び付けることを積極的に行っていく。

6

相談 部門

子どもや保護者、支援者の声を聴き、相談に対応して 一人ひとりを支えるために

子育てや子どもに関する相談をしたい人、及び「子ども」に関わる活動をしている団体や人の相談にのり情報提供や
応援・サポート（中間支援）をおこないました。

6-1 24時間電話教育相談事業

2006年度～
受託事業

大阪市子ども相談センターとの協働で子どもや保護者等からのいじめ、不登校、学校や家庭でのしんどさやトラブル、交友関係のもつれ等に関する電話相談を24時間体制で実施しました。2012年度は津市のいじめ自殺問題が起こり、24時間のいじめ相談のダイヤルの広報が全国的に行われました。毎月、相談件数が増える中、上記問題により、相談件数が急増しました。加えて、体罰問題の影響も大きく、学校環境への不安を深めた保護者からの相談が2011年度と比較して1.5倍以上にもなりました。

電話相談では1. 相談者の気持ちを受け止める、2. 状況を整理する、3. 相談者（子ども、保護者）と一緒に状況に合った具体的な解決策を考え、必要に応じてリファー先を提示しながら、相談を受け付けました。また虐待を感じさせるケースでは大阪市虐待ホットラインとの報告・連絡を行いながら、子どもの救済を間接的にはありますが支援しました。まさにいま虐待を受けているという子どもからの相談もあり、直接的に介入できる児童相談所や警察への繋がることを促し、子どもの救済を目指しました。

研修では、ケース検討を中心に、主訴把握やリピーター対応といった内容を取り上げ、相談者の実態をより掘り下げて見つめていくことを行いました。毎月の定例研修の他、NPOとして実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（1回）、人材育成の環境整備も行いました。

適切な相談所につながったり、自分の不安に向き合い、次の一歩が踏み出せたりする相談者から、本事業の社会的価値の高さを実感しました。

《電話相談実施日時》

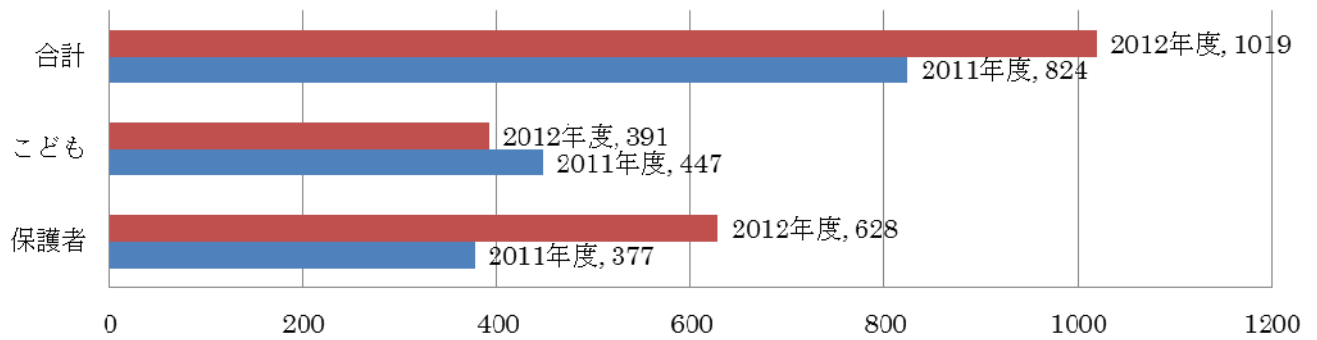
- ・日 時：月曜日から金曜日 19：00～翌朝9：00
土・日・祝・年末年始 24時間

《電話相談員定例研修実施日時》

- ・日 時：毎月第4火曜日、もしくは木曜日 19：00～21：00

参考：2011年度と2012年度の相談件数比較

単位：(件)



	保護者	子ども	合計
■ 2012年度	628	391	1019
■ 2011年度	377	447	824

【次年度の計画】

相談の中身については委託元から「よく聞いてくださってます」と一定の評価を受け、相談件数も保護者を中心に相
 当な増加がみられることから、一定の水準を確保していると言えます。しかし、虐待を見抜くことができなかつた事
 例があり、相談の質のさらなる向上をめざし、緊急時の際の適切な対応を相談員全員が行えるようにすることが必要
 です。研修の中身をよりよいものにするために昨年度の研修を振り返り、相談者の話を聴く力、生活を想像する力、
 適切な助言の出来る力といった諸能力の向上、信頼関係を築きながら相談者の立場に並走した相談の姿勢の確立など
 を目指します。また、子ども本人からの相談件数が下がっています。名称が教育相談に変わり、子どもがかけづら
 いものになっているのが一因だと考え、名称の変更を大阪市と相談していきます。

インターン等の受け入れ

大阪経済大学 3回生 4名

企業実習、ビジネス・インターンシップの授業の一環として受け入れました。

・7月23日から8月31日（期間中18日間受け入れ、実質実習日数 各学生10日）

	実習内容		実習内容
1日目	オリエンテーション	10日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り準備実習等
2日目	「つどいの広場ゆう」イオン出前実習等	11日目	「不登校の居場所」日常活動実習
3日目	「つくるところ」保育実習	12日目	「不登校の居場所」日常活動実習等 事務局実習等、「つくるところ」保育実習
4日目	「不登校の居場所」日常活動実習	13日目	「つくるところ」小学生向けイベント実習
5日目	「つどいの広場ゆう」お話し会実習等 「つくるところ」保育実習	14日目	「不登校の居場所」日常活動実習等
6日目	「不登校の居場所」日常活動実習 「つくるところ」保育実習	15日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り当日実習
7日目	「つどいの広場ゆう」イオン夏祭り準備、親子ヨガ実習等	16日目	事務局にてインターンシップ振り返り
8日目	「つどいの広場ゆう」イオン夏祭り当日実習	17日目	「不登校の居場所」日常活動実習等
9日目	「つどいの広場ゆう」イオン出前実習等	18日目	「ドーンセンター」こどもの部屋 大掃除実習、「つくるところ」保育実習

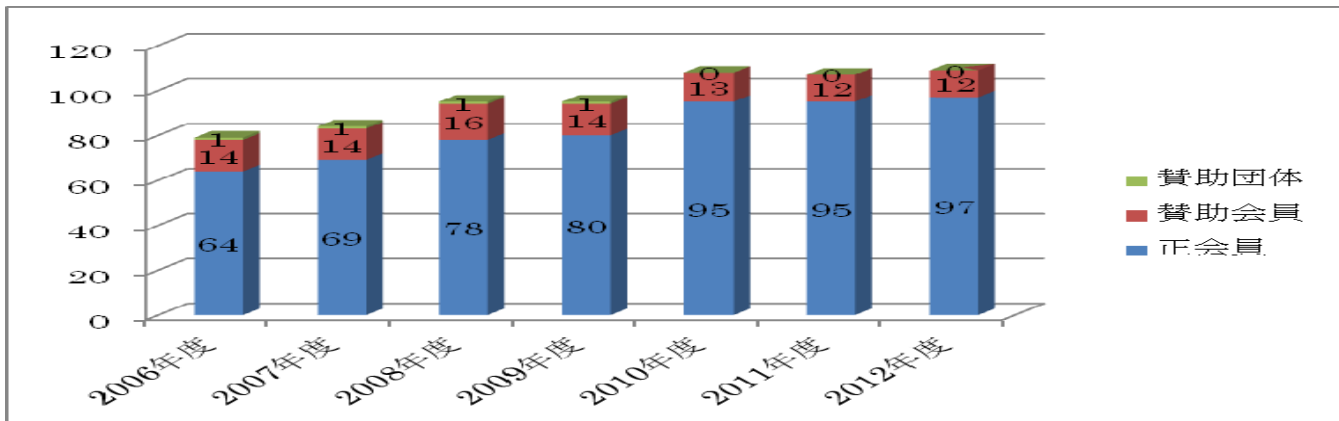
コネクションズおおさか（大阪市）職業訓練

コネクションズおおさかについては、大阪市若者サポートステーションの取組で、関西こども文化協会が職業体験の体験先として登録をしていることから、職業訓練生を受け入れています。職業訓練生の多くは、ひきこもり経験者や、なかなか就職できない若者のため、コネクションズおおさかの担当者から訓練生の状況を聞き取りをした上で、体験にきてもらっています。毎月1～2名程度で受け入れました。職業訓練時の業務内容は、事務局での事務作業が中心で、印刷、勤務ファイル作成など基本的なものから、すこし技術が必要なものまで、参加者の力に応じて行ってもらいました。

【次年度の計画】

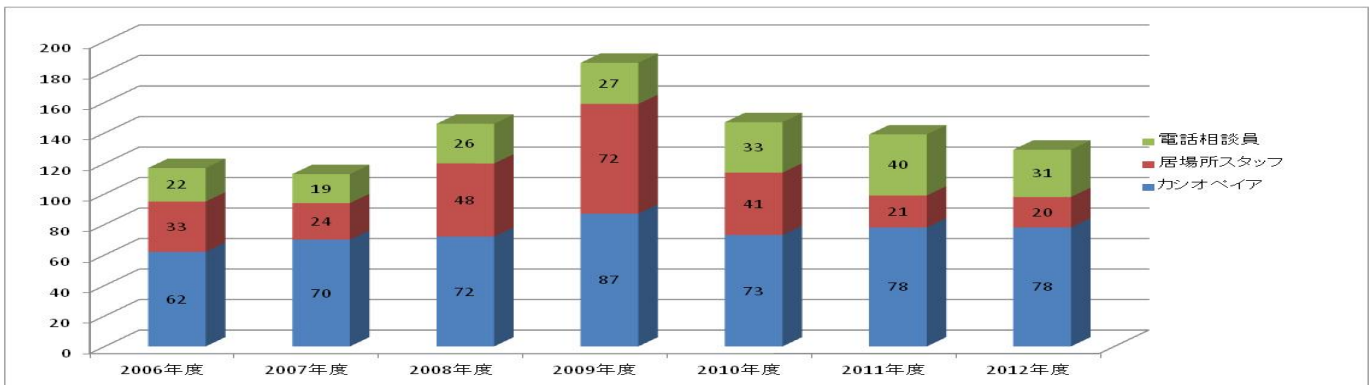
2013年度も大阪経済大学のインターンシップを引き受ける予定です（8月）。受け入れる中で、緊張度が高い様子が見受けられることもありました。緊張を少しでも薄め、当会の体験が、他の職業体験の場に行く際への安心を感じられるものとなるようにしていくことを目標にします。

会員数



	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
正会員	64	69	78	80	95	95	97
賛助会員	14	14	16	14	13	12	12
賛助団体	1	1	1	1	0	0	0

スタッフ数



	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
カシオペア	62	70	72	87	73	78	78
居場所スタッフ	33	24	48	72	41	21	20
電話相談員	22	19	26	27	33	40	31

教える立場ではなく、関わる立場。勉強など何かを教えている方が目的が定まっている分、僕個人はやりやすいのですが、それでも自然に成り立っているのが居場所であり、そこに子どもと一緒に巻き込まれていることを嬉しく思っています。(Nさん・学生)

メンタルフレンドとして活動することで、一口に不登校と言っても本当にたくさんの要因でおこるということを学びました。中には子ども本人を受容するだけではどうにもならないこともあり、市職員さんや相談員さんと共に事業を行うことの大切さを改めて認識しました。(Tさん・社会人)